

近畿進交会会報
第52号
平成24年8月25日

しんこう

(題字：植田美夫)

発行人 植田美夫
編集人 中原悠司
原 洋志 小林 博
白石富男 泉 善高
森田浩一

近畿進交会の集い ご案内

近畿進交会 30周年記念 横浜市立大学・Y校卒業生の集い

平成24年10月6日(土)

12時～15時 (開場11時30分)

会場



大阪キャッスルホテル
HOTEL OSAKA CASTLE

6階宴会場

〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町1番1号
TEL (06) 6942-2401 (代) E-mail info@osaka-castle.co.jp

最寄駅は京阪電車、地下鉄谷町線の「天満橋」です。
大川沿いに出てホテルエレベータでお越しください。



会費 7,000円 (ご同伴家族は5,000円)

出欠はがきは 9月15日(土)までにご投函ください

- 次第 1 2 時～ 近畿進交会総会（活動報告その他）
 1 2 時半～ 懇親会（1 3 時～ ギター演奏・歌唱披露）
 ギター：内山博之氏（日本ギターリスト会議員 音楽大賞実行委員長）
 歌唱：北川三晃さん(昭 28Y) 中田邦政さん(昭 38 商)
 1 4 時半 中締め

近畿進交会の集い 会場周辺のご案内

会場周辺には、見所が沢山あります。『集い』の前後にぜひお出かけいただき、大阪の歴史・文化に触れてください。（ ）は最寄り駅、「 」は集い当日の催事です。

- ①大阪城（天満橋・谷町 4 丁目・森ノ宮） 大阪城天守閣、大阪城公園
- ②大阪歴史博物館（谷町 4 丁目） 「ウクライナの至宝—スキタイ黄金美術の煌めき」
- ③大阪造幣局（JR 桜の宮） 造幣博物館（常設）
- ④八軒家浜船着場（天満橋） 『大阪城・中之島めぐり（アクアライナー）』発着場
- ⑤天満天神繁昌亭（南森町） 落語寄席（常設）
- ⑥中之島公園（淀屋橋・北浜） バラ園、遊歩道他
- ⑦大阪市立東洋陶磁美術館（〃） 特別展「中国の青花—元明時代の景德鎮磁器」
開館 30 周年記念展「白磁を飾る青—朝鮮時代の青花」
- ⑧大阪市中心公会堂（〃） 国指定重要文化財（岩本記念室、展示会等）
- ⑨適塾（北浜） 史跡・重要文化財（緒方洪庵蘭学塾）
- ⑩国立国際美術館（京阪中之島） 現代美術を発信する美術館（常設）
- ⑪大阪市立科学館（〃） プラネタリウムが人気
- ⑫くすりの道修町資料館（北浜） 『日本の医事制度・薬事制度』の創出に貢献した人々

集い担当幹事からのご挨拶

近畿進交会 副会長(平成 2 4 年度集い担当) **小林 博** (昭 40 商)

近畿在住の同窓の皆様、残暑厳しき折ではありますが、お元気にお過ごしのことと拝察申し上げます。

恒例の「近畿進交会の集い」を 10 月 6 日（土）に天満橋の大阪キャッスルホテルで行います。真下に大川が流れ、景色の良いゆったりと落ち着いた会場です。余興としてギター演奏をいたします。

今年は近畿進交会（昨年までの名称は進交会近畿支部）発足 30 周年に当たります。多数の方のご来場をお待ちしております。奥様、ご主人様のご参加も歓迎いたします。

近畿進交会では益々の活性化と発展を計るため今年の夏に大阪、神戸、京都で平成卒年の会を催し

ました。平成年度卒業の方約 150 名に案内状を送り、年齢の若い、年の近寄った方に集まってもらい親交を深めてもらう試みです。

今後も皆様にご協力をいただき、ご意見も頂き、近畿進交会の発展のために諸々の活動を行う所存です。

また会報「しんこう」につきましても皆様からのご寄稿を歓迎いたします。近畿進交会発展の為今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。



万葉雑感

昭36文 飯田 忠義 (長岡京市)

第二の職場であるカルチャーセンターで万葉集の現地講座を担当している。講師は全国万葉協会会長。30年も前の奈良の放送局時代、万葉学者の犬養孝先生とともに取材地をあちこち歩いたが、そこにサンケイ新聞の若い女性記者がいつも同行した。

「忙しいので取材は同日に」という先生からの希望があったからだが、その女性記者が今の講師である。ということで講座では毎回、万葉の秀歌の数々を、あの格調高い「犬養節」で受講生全員と詠いあげることになっている。

新緑が美しい5月は飛鳥を歩いた。万葉の故郷ともいべき地だけに訪ねる機会の多い土地だが、久方ぶりに「大原神社」に寄ってみた。この辺りが藤原鎌足公誕生地と伝えられる神社の境内に先生の筆になる二つの万葉歌碑が並んでいる。天武天皇が藤原夫人(鎌足公の娘)に贈った歌とその答歌だが、ユーモアあふれる二人のやりとりが実にほほえましい。

わが里に 大雪降り 大原の 古りし里に
降らまくは後(のち) 天武天皇
わが岡の おかみに言ひて 降らしめし
雪の碎けし そこに散りけむ 藤原夫人



この二つの歌を、やや俗っぽい言葉にするとこうなる。まず天武天皇が「自分のいる飛鳥浄御原宮に大雪(とはいってもせいぜい5 cm位だろう)が降ったよ。お前さんのいる古ぼけてしまった大原の里にふるのは後だろうよ」とからかう。

これに対しての藤原夫人の答歌が面白い。「あなた何を言ってるのですか。これはね、うちの雨雪の神様にいつけて降らせた雪なんですよ。そのとぼっちりがそちらにいったんですよ。」

亭主が何か皮肉をいった途端に奥さんからやりこめられるという図式はこの時代からあったわけだが、この時代のように奥さんから亭主へも文句はやさしく、ユーモアあふれるものにしてもらったら、どんなにか男性の心は休まることだろう。

我が背子(せこ)と 二人見ませば いくばくか
この降る雪の 嬉しからまし 光明皇后

光明皇后が夫である聖武天皇に奉った歌だが、この歌には夫に対してのやさしい思いやりが強く感じられる。万葉集に見られる、こうしたさまざまな歌から、当時の夫婦愛を読みとることができるのも楽しい。「学校で暗記させられる歌」という印象が強く、関心のないというより、むしろ遠ざけていた万葉集。この歌に興味を持つようになったきっかけをつくってくれたのも先生である。

その取材を始めてから間もなく行ったのが大和三山に囲まれたかつての都の藤原京。その大極殿跡に腰を下ろした私に先生が笑顔で話かけてきた。

「飯田さんのその場所に持統天皇がいらっしやったんですよ。あれが香久山で白栲(たえ)を乾していたんですよ。その情景を詠ったのがあの、

『春過ぎて 夏来たるらし 白栲の 衣乾したり
天の香具山』なんです」。

そうか、ここからの風景か、万葉が詠われた場所はこんな身近な所にあるのか。万葉は身近なものなのだ・・・その言葉を聞き、あの景色を見た時が、まさに私の「万葉開眼」であった。

ふと見上げる書斎の本箱の中に万葉に関する本が30冊近く並んでいる。担当する万葉講座が始まってから8年、毎月1回だから下見を入れれば200ヶ所近く「万葉ゆかりの地」を訪ねていることになる。行った先々で、かつて先生から聞かせてもらったさまざまな話を思い出す。

「今も愛される沢山の歌が作られたのは、当時の人が生きとし生けるものすべてに魂があると考えたからなんです。」いつ、どこで聞いたのかの記憶はないが今もこの言葉が忘れられない。自然破壊や人命軽視がますます深刻化する今、この万葉人の根本にある思想を重く受け止めなければならない。

万葉集に変わらぬ興味を持ち続けているのは、それぞれの歌の素晴らしさに加え、その意味や時代背景、作者の心情などを分かりやすく語りかけてくれた先生への強い想いがあるせいなのかもしれない。



退職後雑感

昭40商 松田 至弘 (西宮市)

大学を卒業と同時に関西に本社のある塗料メーカーに就職しました。以来、平成19年6月に退職するまで、42年間勤務しました。この間転居を伴う転勤もなく、ずっと関西で生活してきました。



大きな病気やけが、事故にあうこともなくいわゆる大過なく務めることができました。人並みに結婚し、子供を育て、どこにでもあるサラリーマン人生でした。これといった趣味もなく、仕事優先の生活パターンで、今思えば味わいの少ないものだったかなと思っています。

退職前には職場の人や友人から、退職後はどうするのですか、とよく聞かれました。退職後の生活を何かと心配いただいたようです。確かに退職後どのように過ごすのか、具体的なことは何一つ考えていませんでした。まあ何とかなるだろうと思っています。

振り返ってみると、退職後の生活にとって結果としてよかったことが二つあります。一つは、自宅が坂の上にありますので、老後のことを考えるといつかは駅からフラットで生活しやすい所へ転居したいという思いが以前からあったことです。何となく始めた転居先を探すということが、夫婦で話し合い、そしていっしょに行動するというきっかけになりました。もう一つよかったのはペットの犬がいたことでしょうか。夫婦で犬を連れての散歩が日課になり、ペットが共通の話題になり、お互いコミュニケーションが深まりました。ちょっとしたきっかけで退職後に始まったコミュニケーションも5年もたつと日常生活から趣味やファッションなどにも少しずつ広がっています。

退職後大事にしてきたのは朝の生活習慣づくりです。朝起きて先ずすることはラジオ体操です(第1と第2)。そのあと若干の筋トレを入れたストレッチをしています。ここまで約40分かかります。それから1時間20分ほどの朝の散歩に出かけます。自宅を出て住宅地を抜け川沿いの道を上流へ辿って池に向かいます。池の手前にお地藏さんがあり、お参りをしてから池に出ます。池の周囲には桜並木と銀杏並木があります。池の中には小さな島があり、いつも水鳥が群れています。六甲山系や甲山も近くに眺

められます。春に梅や桜、秋は銀杏、季節の花も楽しむことができます。池のほとりで景色を眺めながら、季節の変化を体で感じることができ、生きている喜びを味わっています。

そのあと、池の周囲を約1kmジョギングしてから近くにある広田神社に向かいます。広田神社は阪神タイガースが優勝祈願をすることで知られています。神社では月ごとの神事があり、散歩の途中で出会うこともあります。そんな時は、ちょっと立ち寄りしています。また、神社の田んぼでは、田植えから収穫までの祭事が行われています。稲の成長と共に季節を味わい、田に来るいきものたちとも触れ合うことができます。

散歩の折り返しは神社での参拝です。いつも新たな気持ちでお参りをしています。そして参道を通って帰途につきます。帰り道には市の運動公園があります。運動公園では、朝の運動をする人、散歩をする人、犬の散歩で知り合った犬友のグループ、公園の花壇を手入れする人、楽器の練習をする人などに会います。何人かと顔見知りになってちょっとした会話を楽しんでいます。2時間ほどの朝食前の生活習慣です。

朝の体操や散歩は、どこにでもある話ですが、私にとっては、やっとな身に着けた大切な生活習慣であり、退職後の生活のベースになっています。朝起きてやるべきことや、やりたいことがしっかりあるということは、大変意味のあることです。この日常的生活習慣がある一方で、旅行、芸能、文化、スポーツなどのイベントについても、できる限り楽しむようにしています。

このように、ケ(ふだん)とハレ(よそゆき)を組み合わせ、日々感動をもらい、生きている喜びをしっかりと感じられるよう、一日一日をていねいに過ごしています。退職後の生活のベースとなる朝の生活習慣が、いつまでも続けられるよう、願っています。



支える

昭 33 商 木村 勝彦 (大阪狭山市)

喜寿を過ぎて1年、最近気になることがあります。気分よく外気を楽しんで帰宅したときも、玄関口で靴を脱ごうとして少し前かがみになり、左足をあげて踵に手をそえようとする、つい体が傾き、危うく倒れそうになる。周章てもう一方の手でドアの取手や下駄箱につかまって転倒せずにすんだ。ヤレヤレ・・・ヨカット！と。こんな経験がしょっちゅうです。掴まりどころがあって助かった、支えてもらって有難うと思わずひとりごと。



名実ともに後期高齢者層の一人となり、決して高額ではないが安定した年金をいただき、安穏な生活を送らせてもらっていますが、これも自分の現役時代の拠出や積み上げに加え、現在及び将来の若い人たちの負担増に負う果実の先取りの感があり、本来私達の世代が支えるべき若者、子供たちの幸せを奪ってしまっているとするならば、まことに遺憾なことであります。国家財政にあっても、赤字国債が1千兆円と聞くと、こんな数字に不感症になってしまっはいけない、将来の若者や子や孫の安心な生存を支えるべく、今生きる私達が辛抱し、頑張らねばと考えます。

朝日放送(ラジオ)「おはパソ」の道上洋三さんは、タイガースを応援し支えるファンをもって自認する一人ですが、逆に道上さんが人気パーソナリティーとして30年以上も存在し続けているのも、その仲間に支えられているからです。私は古典芸能のひとつである能楽に興味を持ち、ファンの一人としてそれを支えたい気持ちと、その中から湧き出る感動と満足感は、私の人生を支えてくれていることは間違いない事実です。いわば無欲の好循環とでもいいでしょうか。

昨春秋、京都で行われた「細川家の至宝」(京都国立博物館)と「武家と能」(相国寺承天閣美術館)「肥後熊本藩主細川家の筆頭家老・松井家の名品」(茶道資料館)で目にした秘物に関して少し触れてみたいと考えます。

数ある展示品の中で興味をもったのが2点。自筆謡本60冊と能番組表です。自筆謡本60冊は、ちょうど漢方薬を売る店頭正面にある小さな抽斗を多数持った茶柵のような段筐に入れてあります。上下3段、横2列、五番とじ×10冊ずつ納まり合計303曲。1冊だけ段筐の外に出してひろげて置いてあり、

手書き本だと判ります。番組表は、当時の一日の演能曲目が10曲以上も書かれてあり、びっくりです。その後今年3月、京都女子大学での第18回能楽フォーラム「大正初年の金剛謹之輔の片影」の時の配布資料で、明治44年5月1日、3日の番組表(別表1)を見て、これまた驚きです。

(別表1)

1日の上演曲数の多いのに興味をもったところに、たまたま6月初旬、郷里熊本へ行く機会があり、少し足を伸ばして八代まで行きました。先に京都で目にした松井家名品のうち「妙庵手澤謡本(手書き謡本)の現物を手にとってみたいと、松井文庫・松浜軒と八代市立博物館を訪れ、翌日熊本城内にある県立美術館・永青文庫常設展示室にも立寄りました。

八代では訪れた当日、名庭園・松浜軒の菖蒲満開のお茶会(肥後古流)があり、理事長多忙のため手書き謡本の実物閲覧はかなわず残念でした。翌日訪れた県立美術館では学芸員の好意により「丹後細川能番組」コピー52枚を持ち帰りました。

これは天正1年(1583年)から慶長4年(1599年)までの間の丹後(主として宮津と田辺)での50回に亘る能の催しで、総計433番の上演曲目と演者(シテの他に囃子方も)氏名が克明に記録されています。最初の式三番を含め10曲以上が1日に演じられ、天正12年8月1日(別表2)のように15曲の日も数多くあります。

(別表2)

現在では1日の上演数は多くて3曲、ほとんどは2曲止まりであるのに比べ、その多さに驚くと共に、当時と今とでは内容、スピードにおいて全く異なったペースであったのかなと思えます。その比較をする上で大変参考になったのは、前記の松井家文庫所蔵の「妙庵手澤謡本」です。

6月初旬、八代での閲覧は断念せざるを得ませんでした。その後神戸女子大学古典芸能研究センターの蔵書群の中に、その「妙庵手澤謡本」の写真版（全60巻）あるとの情報があり、早速見せてもらいたい旨連絡すると快諾の返事があり、6月12日にその機会を得ました。本の大きさはタテ178^ミ×ヨコ127^ミ（原稿B6版に近似）、1冊に5曲、ただし#10に+2曲、#60に+1曲あるので総合計303曲が書かれています。曲名を宝生流の現行曲181曲と対比してみると170曲が収納され、11曲が掲載ありません。その11曲は、翁、生田敦盛、熊坂、忠信、土蜘蛛、巴、飛雲、藤、巻絹、枕慈童、来殿です。「能にして能にあらず」という翁はさておくとしても、これだけの人気曲が欠落したのはなぜ？

本文は4行書き、1行役15～16文字、ページ数は高砂40^ツ約2600字、放下僧44^ツ2860字、現行本は6行書き、1行約16～18文字、高砂24^ツ約2300字、放下僧26^ツ2800字。

内容、字数がほとんど現在と変わらないとあれば、上演のテンポ、スピードがよほど速く、1曲の上演時間は現在の半分か1/3程度だったのでしょうか。もしそうだとするならば、能は「幽玄の世界、夢幻能こそ能の本道」との評価からすると、摺足などでなく、舞台をとんで廻るなどの快進劇だったのかも考えたくになります。

後に伝えたい伝統芸能であり、これからの将来を担う次の世代に少しでもその良さを知ってもらうために、少しでもお役に立つことはないか、支えることはどんなことかと考えるとき、そのこと自体が自分の中に意欲が湧き、大げさに言えば生き甲斐のひとつともなり、この意識が自分を支えてくれている、支えられていると思います。支えられている感謝でもあります。ボランティア活動も同じ、支援し、支えることは自分を励ましてくれる、支えられている、この好循環は、家族や仲間との繋がりについても同様でしょう。そう信じています。

（参考資料：伊藤正義「松井家蔵 妙庵手澤謡本 識語控」1982年 他）

*本稿は市大能研会報「松雪第15号」に掲載

生き方の整理

昭46商 森山 茂（生駒市）

同窓の諸先輩、諸兄のなかには尊敬すべき人生観をお持ちの方もおられよう。生活の糧を得る間でも自らを捨てず（つまり己の節を曲げず）家庭を守りしっかり自分の生き方をされた方もおられよう。しかしながら多くの方は小さな抵抗を試みながらも結局は社会の奔流に流され、不本意な生き方を余儀なくされたのではないかと拝察する。



そこで自らの反省をかね、私の思いと提言を述べてみたい。今は自分をとりもどせる時のはずであり、それには精神力を衰えさせず自分のライフスタイルを作ることが大切と思う。若いときのような時間の使い方はもうできないのだから。まずは身の回りの物の整理をしよう。読まない本や物は整理していきよく捨てる。思い出は心の中にあればよい。できるだけ身軽になることだ。

さらに気の置けない友達は大事にしながら、人付き合いの幅を少しずつ年とともに整理し、密度の濃い付き合い方をすること、そして一方ではサークル活動などでこれと思った新しい友達をつくりいつも刺激しあうことがいい。心しておくことがある。それは幸いにも人生を共にするパートナーがいればやはりそこで生涯思いやりの努力をすることが残りの人生を幸せにするかどうかの鍵になる。

自由な時間を持てるようになったらひとりになる時間を、自分の自由な世界を持とう。残しておいた自分にとって大切な本を読み返そう。会って話をしたい人には会いにでかけよう。

お釈迦様が無常を説かれている。すべてのものは瞬間瞬間、変化消滅していくのだと言っている。人間が作り上げた価値のないものに人間は執着して生きている。仏教でいう「少欲知足」の考え方を実践し、残りの人生をどう過ごしてゆくかをあらためて考えたい。そこでは江戸時代にその範を示してくれた良寛に倣うのがよいと思う。ひとつの生き方を示している。

死ぬときは何も残さない。残すのは我が身ひとつとしよう。

ちょっと川柳 昭36文 原 洋志（高槻市）

言い訳はすべて暑さのせいにする
暑いねと北海道が言ってくる
水槽の金魚欲しがるかき氷
夏本番海へ魚になりに行く
夏休みなくて不満の冷蔵庫

平成23年度会計報告

(H23.4.1-H24.3.31)

会計 川戸 真吾

1.一般会計(単位:円)

(1)収入の部

摘要	金額	備考
前年度繰り越し	807,964	
運営費	513,680	前受け金 72,000
雑収入	19,155	総会剰余金
受取利息	146	
合計	1,340,945	

(2)支出の部

摘要	金額	備考
会報	303,730	会報 48,49,50号
会議費	43,620	
通信費	26,400	
総会関係費	34,605	
総会補助金	100,000	
事務経費	50,000	
雑費	2,535	
合計	560,890	

(3)次年度繰越

780,055

内訳1	経常収支繰越	708,055
	24年度以降前受金	72,000
内訳2	郵便貯金普通口座	780,055
	貯金センター口座	0
	手許現金	0

2.年次総会特別会計

収入		支出	
会費収入 7,000円(60人)	420,000	会場飲食代	461,650
4,000円(6人)	24,000	通信費	27,580
本部お祝い	50,000	映像製作費	20,000
総会補助金	100,000	お土産代金	65,615
		雑費	0
		総会剰余金	19,155
合計	594,000	合計	594,000

監査の結果、正しく決算されていると認めます。

会計監査 三木 得生 内田 正雄

〔会計報告に関するお問い合わせは事務局へ、または10月6日の近畿進交会総会時にお願いします。〕

平成24年度運営会費納入者ご芳名

ご協力有難うございました

(24.7.12. 現在 数字は卒業年次)

(Y校) 昭25 西村芳穂 26 深谷悦男 28 北川三晃・横田誠夫 35 内田正雄 36 斎藤直樹 38 酒瀬川 裕

(Y専) 昭12 冨田 豊 13 李 馨 20 平田誠治

(商学部) 昭30 南 博・中谷庄治 31 水田 宏・渡辺勲・遠矢俊郎・平野哲生 32 小川哲彦・土井一興・前田治之 33 押村忠男・木村勝彦・関 敏光・浜田純二 34 清水弘道・井上文夫・荒巻弘志・植田美夫・竹内義勝・山田裕康・野口幹夫・渡辺 清・浅井幸洋 35 大石 昭・加藤 明・辻村通弘・中島 裕・西田基雄・西尾 健・横井正隆 36 大嶋進治・坂上晋太・野口 実・松下 巖・山口昌志・小野甫夫 37 板倉光一・高橋修三・高木敏幸・出射靖郎・長渕 勲・十時 弘 38 加藤和男・中島邦雄・中田邦政 39 石原 浩・鞍本昌男・坂口龍二・中原悠司・幡掛大輔・鈴木剛夫 40 増田久男・小林博・冨田俊三・坂原修二・日隈 中・山本英夫・小坂勝之・松田至弘 43 田口孝雄・竹内翔司・菅 英伸 44 白石富男・全 在紋・冨田一弘・城島護彦・泉 善高・後藤隆雄 45 大内 謙・三善慎一・三田村秀雄 46 森山 茂・竹内邦彦・岡崎 智 47 清水 薫・山崎 弘・松井富士夫 49 竹田 博・市原 裕 50 入江真佐男・麻野広行 51 紅露章子・内山隆夫 52 小久保耕志 58 塚本義久 61 上田 亨・藤井優次 62 浅香辰也 平6 狩野哲郎・北見龍彦

(文理学部) 昭33 原田哲郎 34 芦田太久雄 36 原 洋志 37 中村利寿・伊東祐一郎・石井恵生 38 小山浩司 39 柿花和夫・竹村哲成 40 青柳秀克 41 奥村忠道 42 半田澄夫・小林光雄 43 小田 豊 46 森田浩一 48 日暮雅夫 52 三木京子 53 三木得生 57 中西万里・升光泰雄 58 細野真嗣 63 佐々木亜以子 平7 杉野利幸・古内秀樹

(医学部) 昭32 谷 莊吉 38 津田義則 40 山本利美雄 45 安武建二 51 牧 一郎

会員異動のご連絡

平成24年4月25日発行の「しんこう51号」発送後の会員異動は下記のとおりです。

- ・昭28Y商 北川三晃：住所変更：〒569-0076 大阪府高槻市出丸町6-2 TEL072-675-4005 (TEL番号変更ナシ)
- ・昭36Y 斎藤直樹：勤務先事務所名変更：杉本→中村 税務会計事務所 TEL06-6212-7215 (TEL番号変更ナシ)
- ・昭44Y 川崎英子：転居先不明に付き抹消
- ・昭45Y 佐藤(肥後)るみ子：転居先不明に付き抹消
- ・昭23専 大津寄勝典：転居先不明に付き抹消
- ・昭37商 黒住隆興：転居先不明に付き抹消
- ・昭39商 阪口龍二：役職変更：
サムテック(株)専務取締役→取締役副会長

- ・昭 43 商 竹内翔司：勤務先所属部署名変更：
大阪労働局石綿総合相談員→健康課総合相談員
- ・昭 44 商 泉善高：勤務先勤務地変更：
ヒューマンリソシア(株)京都支社→大阪本社：TEL06-6282-6100
- ・昭 49 商 市原裕：住所変更：新：〒658-0052 神戸市
東灘区住吉東町 2-4-20-215 TEL078-855-6676
勤務先：パナソニック(株)CS 部 電話お客様相談センター
- ・昭 58 商 塚本義久：所属部署・役職変更：
奈良県地域振興部南部振興課参事
- ・昭 59 商 佐藤幹久：転居先不明に付き抹消
- ・昭 59 商 則俊(森山) 恵智子：転居先不明に付き抹消
- ・昭 61 商 上田亨：勤務先勤務地変更：(旧)パナソニック
アソシエーツ→パナソニック(株)AVC ネットワークス社
- ・昭 61 商 藤井優次：勤務先所属部署・役職変更：
(株)横河ブリッジ橋梁営業本部営業第二部長
- ・平 6 商 十時賢太：転居先不明に付き抹消
- ・平 13 商 大島久幸：転居先不明に付き抹消
- ・昭 40 文 青柳秀克：TEL番号追加： TEL075-213-1251
- ・昭 43 文 小田 豊：名古屋市へ転居：〒460-0008
名古屋市中区栄1丁目 30-15-301 TEL052-204-8501
- ・平 5 物 小川浩二：転居先不明に付き抹消
- ・昭 38 医 津田義則：役職変更：津田胃腸科医院理事長
兼 院長

幹事会報告

近畿進交会 会長 昭 34 商 植田 美夫
(6月1日(金)於 門真市 松心会館)
出席者： 深谷悦男 植田美夫 原 洋志 出射靖郎
中原悠司 内田正雄 小林 博 白石富男 泉 善高
森山 茂 森田浩一 竹田 博 川戸眞吾

議題 1. 本年の「近畿進交会の集い」について
＜当「しんこう 52 号」にて正式の案内がなされているために一部省略＞

催し物は森山幹事ご提案のギター演奏に決定。
返信ハガキは白石副会長が中心となって整理する。
席順は年次別。全員の記念写真・スライド・パネル
は中止。(スナップ写真のみ)総合司会は泉事務局長、
余興時の司会は森山常任幹事。

なお「来年の集い」は阪急インターナショナル H
開催を予定していたが、日程の関係で再検討する。

議題 2. 若手会員の勧誘について

近畿進交会の活性化と若手幹事の増員対策(核と
なる人の育成)の為に平成卒業会員を対象とした
150名。(名簿より)「若人の集い」は大阪(三木)
席会場は自由とする。

(カッコ内当該地区のお世話役・*は全体のまとめ役)

・神戸(*川戸)・京都(白石)の3会場で開催し出
8月末迄に各地区で開催出来るよう早急に企画立
案する。費用は5,000円前後/1人(会費3,000円)
を予定。「若人の集い」では「10/6の集い」の再確
認・「しんこう」講読の確認・出来れば運営会費
納入の促進(増員)を何らかの形で話をする。

議題 3. 本年の「しんこう」発行時期と 原稿収集について

＜既に「しんこう」第52号発行済のため省略＞

議題 4. 平成 23 年度会計報告・監査報告及び 平成 24 年度予算について

＜当「しんこう」に会計報告・監査報告が掲載さ
れているため省略＞

今回の総会で会計報告に関する質疑応答は行う。

本年度の予算関係では総会の補助金として約 10
万円支出してきたが本年は補助金なしとして、この
予算を「若手の集い」の補助金に回すことにする。

議題 5. その他

*植田会長から自身の病状について説明があり、今
後幹事会・総会に欠席の場合は出射副会長に会長代
行をお願いしたい旨の提案がありました。

・次回幹事会の日程 9月18日(火)松心会館

一般社団法人 進交会 役員人事

去る5月26日社員総会が開催され、新しい理事
が承認され、第1回理事会で秋谷新理事長が選任
されました。(理事長・副理事長は下記の通り)

理事長 秋谷 浄恵
(昭 35 年 商)

副理事長 南 信一郎
(昭 28 年 Y)

〃 川辺 久子
(昭 37 年 文)

* 田代副理事長はご退任



秋谷新理事長

編集便り 編集人 昭 39 商 中原 悠司

「しんこう」52号をお届けします。
「しんこう」は会員皆様のご協力で成り立って
います。皆様の現況、思い出、趣味などジャンルを
問いません。下記編集子までお送りください。

原 洋志宛 FAX: 072-682-4193

MAIL: hara_yg88@tcn.zaq.ne.jp

又は中原宛 FAX: 072-729-1362

MAIL: nakahara2001@hotmail.com